



森林植物園

第54回テーマ： 森林植物園の歴史

講演内容

- ①森林植物園設立までの経緯
- ②「紀元2600年記念
神戸市立森林植物園造設計画」
- ③指定管理者としての
今後の園の運営の視点

実施日：平成19年9月15日（土）

午後1時～3時30分

場 所：六甲山自然保護センター

レクチャールーム



講師：市野 和雄さん
プロフィール

1949年生まれ、新潟県出身。信州大学農学部林学科卒業。神戸市造園技術職員、布引ハーブ園施設課長、須磨離宮公園園長を経て、神戸市立森林植物園 園長。

秋の訪れを感じる六甲山

9月に入り、記念碑台ではススキが風にそよいでいました。晴天かと思うとにわか雨が降り、こころ変わる天気にも秋の訪れを感じました。

午前中は近畿自然歩道を整備し、散策路脇の二ツ池の水生生物を調査しました。整備活動では、メジャーを使って散策路を10mずつ区画分けしていきました。今後は区画ごとに再生した植生を調査し、整備活動の効果を見極めていきます。



水生生物の調査の様子

市野さんは公園のスペシャリスト

市民セミナーには神戸市立森林植物園園長の市野さんを講師にお招きしました。市野さんは無類の山好きで、学生時代には山岳部に所属してヒマラヤまで遠征されました。山の縁で神戸市に就職して以来、公園の仕事に従事され、神戸市の公園のことを熟知されています。ブータン王室の庭も造られたとか。気さくなお話しぶり、森林植物園の歴史を分かりやすく紐解いて頂きました。

森林植物園は日本で唯一の「樹木園」

森林植物園は昭和15年、皇紀2600年の記念事業として起工されました。世界の針葉樹を一堂に集めることを目標にしていると市野さんにご紹介いただきました。日本には植物園は数多くありますが、草花ではなく、樹木をテーマにした植物園は日本では唯一の存在だとお話されました。

指定管理者制度導入後の今後に注目したい

森林植物園も他の公共施設の例に漏れず、指定管理者制度が去年から導入されました。責任者である市野さんも色々な取り組みをされています。

六甲山上で活動する団体として、私たちも連携して六甲山を盛り上げる活動をしていきたいと思っています。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 高田 英裕さん

神戸生まれの神戸育ちで、麓の大学で学んだ影響もあり学生時代から六甲山への憧れがありました。幸いにも2年前に記念碑台近くに山荘を手に入れ、それ以降週末を山で過ごす内に、この素晴らしい大自然を介して役立ちたいと考えるようになりました。このようなことから森林インストラクターに興味を持ち始め、来年を目処に資格を取ろうと勉強を始めています。今回のセミナーはその一環として受講しました。予想以上に充実した内容で、非常に満足しています。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

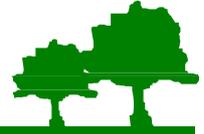
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

コベルコ環境保全基金、セブン-イレブンみどりの基金
ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金



第54回テーマ：森林植物園の歴史



第54回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13：00～13：10
2. 講演：13：10～14：40
3. 質疑応答：14：40～14：45
3. 休憩：14：45～15：00
5. 交流会：15：00～15：30

講演

- ①森林植物園設立までの経緯
- ②紀元2600年記念神戸市立森林植物園造設計画
- ③指定管理者としての今後の園の運営の視点



セミナーの様子

講演の挨拶(市野 和雄さん)

森林植物園園長の市野です。私は日本のスキー発祥地の新潟県上越市の生まれです。ご紹介で「信州大学農学部卒」とありますが、「山岳部」の間違いです(笑)。在学中にはネパールのアンナプルナII峰に登りました。神戸市の宮崎元市長が山好きだったということで、神戸市に就職しました。公園をつくる技術職員として働きました。神戸市は公園面積が全国一の街で、昔は9時から10時頃まで残業して一生懸命公園をつくりました。その後、布引ハーブ園施設課長や須磨離宮公園の園長を務め、森林植物園は3年目になります。今日はお招きいただきありがとうございます。



市野さん

講演内容

1. 森林植物園設立までの経緯

■土地の境界をめぐる争いが270年間続いた

江戸時代のはじめ、慶長の昔、六甲山は「入会地」と呼ばれる近隣の住民の共同所有地だった。住民は山に入って薪や山の産物を取っていた。その結果、六甲山は荒れていたと言われている。山上での村の境界線をめぐって、山田村と福原村の間で「中一里山紛争」という争いが起き、明治時代に決着するまで270年間も続いた。この紛争に由来する「争論の松」の切り株が森林植物園に残っている。

■六甲山は全部がハゲていたわけではない

明治時代に植物学者の牧野富太郎が六甲山を見て、木がないので雪が積もっているのを見間違えたという有名な話がある。六甲山は昔からハゲ山だったと言われている。



江戸時代の六甲山を描いた絵図

江戸時代の六甲山を描いた絵を見ると、山上には木が少ない。山麓にはそれなりに樹木が形成されている。明治の神戸開港の数年前、幕府は和田岬や湊

川に砲台を建設した。このとき、六甲山の谷筋に茂っていた立派な松が材料に使われた。山頂はハゲ山だったが、山麓には良い林があったことが分かる。

■植林は「水源涵養」から

明治22年に神戸市制が施行された。明治元年から20年で神戸の人口は6倍になっていた。水質が悪化してコレラや赤痢が社会問題になっていた。神戸市は水質の保全と緑化の必要性を感じ、明治32年、東京大学の教授で林学博士の本多静六を呼んだ。本多は講演で「水源涵養」の重要性を説いた。その後、布引の水源が完成し、本多の講演に触発された人々によって、明治35年から六甲山・再度山で大規模植栽が始まった。六甲山頂から今のしあわせの村までは県が、再度山・中一里山は市が植栽を担当した。



本多静六

■緑が増えて、開発の機運が高まった

昭和に入り、六甲山も緑になってくると、開発の時代がはじまった。阪神電鉄が山頂の開発を積極的に行った。ケーブルや高山植物園、別荘をつくった。そこに阪急電鉄も負けじと加わり、開発競争になった。神戸市も「何かやらなあかん」と思い、諏訪山から再度公園までの道路を建設し、修法ヶ原の一角を公園化した。

2. 紀元2600年記念神戸市立森林植物園造設計画

■大公園の構想

昭和9年に神戸に水害が起きた。著名な林学博士だった後藤収蔵に水害後の調査が依頼された。国土保安・風致・観光という観点の調査の過程で、六甲山の入会地などが神戸市に移管されることになった。移管された土地に森林植物園を作ろうという構想が出てきた。当時の構想は今の森林植物園の地域だけでなく、修法ヶ原などの公園を含み、鶴越まで広がる大公園の構想だった。

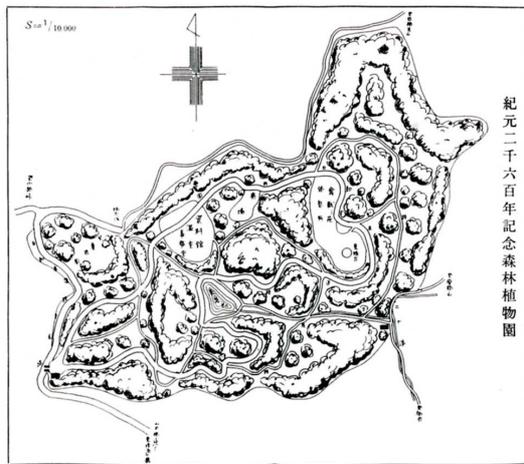
■紀元2600年の記念事業として計画

昭和15年は「紀元2600年」の年だった。大イベントだったようで、日本各地で事業をやるよう宮内庁から指示があった。神戸市でも何をするかを考えて、森林植物園の構想を記念事業として宮内庁に提案した。この計画は日本で最高に素晴らしいというお墨付きをいただき、即予算が決定し、昭和15年の2月に起工式が行われた。

■森林植物園の造設計画概要

「神戸市森林植物園造設計画概要」という書類が残っている。これを見ると、自然科学の普及と観光地の目玉を作ろうというのがポイントだった。世界中の針葉樹を集めることを考えていた。当時は林業が重要な産業で、針葉樹にこだわりがあった。

森林植物園の造設には10年間で100万円の予算がつけられた。作りながら完成した場所から順次開放されていった。太平洋戦争が始まる時期にのんきなことだとも思うが、心意気としては素晴らしいと思う。植物園は、戦後も整備が続けられ、昭和26年に無料開放された。



森林植物園の計画書にある見取り図

3. 指定管理者としての今後の園の運営方針

■指定管理者制度が始まって

昨年からは神戸市でも指定管理者制度が始まった。森林植物園には複数者が手を挙げた中、神戸市緑化協会が受注した。

じっとして森林だけ整備すればいいという時代は終わった。時代の変化をひしひしと感じている。いかに多くの入園者に来ていただいて、収益を上げるか。植物園では年間25万人の来場を目標にしている。より多くの人に自然の良さを知っていただきたいという真面目な気持ちでやっている。植物園を楽しんでいただきたい。

■新しい目玉「ウォレマイパイン」

オーストラリアにブルーマウンテンで有名なウォレマイ国立公園がある。恐竜時代の絶滅植物として考えられていた「ウォレマイパイン」がそこで発見された。この木は「ジュラシック・ツリー」とも呼ばれている。神戸の姉妹都市のブリスベンから寄贈を受けて、植物園に去年植えた。日本ではまだそんなに出回っていない。まだ1mぐらいの高さだが、新しい目玉になる。ぜひ一度見ていただきたい。



ウォレマイパイン
 (空中降下して接近)

質疑応答

戦争中も植物園の造営は続いたの? : 続いている。さすがに数は少ないが、昭和20年でも200本植えたという記録が残っている。このときにがんばってくれたから今があると思う。

森林植物園は日本や世界でどの程度の規模? : 面積は142haで日本トップクラス。だが単純に比較できない。森林植物園は「樹木園」で、いわゆる「ボタニカルガーデン」ではない。樹木園は日本では唯一の存在。海外にはシアトルなどにあるようだ。

まとめ(市野さん)

森林植物園は六甲山の緑化の歴史の中の象徴です。昭和15年当時の設立主旨で今もやっています。昭和32年の有料開園以降、カササギやカモシカの飼育など、いろんなことをやってきました。

今度は森林植物園でお話しする機会をいただければと思います。なんとか植物園にも足を運んでもらえたらと思います。

事務局より

森林植物園が、最初は壮大な構想だったことや、現在も日本唯一の樹木園であることなど、初めてお聞きする話がたくさんありました。

ヒマラヤ遠征やブータン王室の庭造りなど、市野さんご自身の活躍ぶりに興味津々になりました。話題を変えてゆっくりお話をお聞きする機会を持ちたいと思いました。

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ・スライド
- ・森林植物園ガイドマップ

市野 和雄
 神戸市立森林植物園 園長
 〒651-1102 神戸市北区山田町上谷字長尾 1-2
 TEL : 078-591-0253 FAX: 078-594-2324
 MAIL : arboretum@kobe-park.or.jp

◆参加者の声～アンケートより～

- ・戦中・戦後も計画を進めた神戸市の姿勢に感銘を受けた。
- ・森林植物園の地勢・歴史などが系統立てて分かった。
- ・今までの努力があつてこそこの植物園だと分かった。
- ・六甲山は禿山ばかりではなかったという話に感動した。

◆参加者 : 18名 (50音順・敬称略)

市野 和雄 浅井 審一 伊澤 信雄 小野 律子
 北山健一郎 桑田 結 高田 英裕 遠井 方子
 堂馬 英二 堂馬 佑太 藤井宏一郎 増井 啓治
 増田 知子 村上 定広 森 康博 八木 浄
 米村 邦稔 若林 朝子